

## 耕畜連携の推進により稲WCSの生産拡大を支援

石川農林総合事務所

白山市八田町にある（株）有機センター白山（以下、「有機センター」）は、平成19年に設立され、市内の畜産農家から排出される糞尿を堆肥化して、松任地区（旧松任市内）の主に耕種農家のほ場に還元しています。平成25年には飼料生産部門を立ち上げ、稲WCS（稲の穂と茎葉を丸ごと乳酸発酵させた牛の飼料）の収穫、調製及び販売を開始し、耕畜連携の取組を強化しました。

（作付面積 H25年：10ha → R3年：24ha →目標：30ha）

しかし、近年、円安や海上運賃の上昇、ウクライナ危機等を背景に輸入飼料価格が高騰し安定的に調達可能な国産飼料の需要が急速に高まり、こうした情勢を踏まえ、有機センターとしては、畜産農家のために供給量を増やしたい意向でしたが、今後の需要見通しが不透明である上、収穫用機械の能力不足により、面積の拡大は困難な状況でした。

そこで、当事務所は、畜産農家の当面の需要量を調査した上で、有機センターに対して、より能力の高い機械を導入して面積を拡大することを提案しました。また、面積の増加に比例して作業量も増加するため、収穫時の作業体制や各畜産農家への供給体制の見直しについて有機センターと何度も検討してきました。

この結果、令和5年に国の補助事業を利用して機械を導入することができ、作付面積は目標を上回る36haまで拡大、更に、機械の能力向上により刈取期間が短縮され、刈り遅れによる品質低下も抑制することができ、商品価値の向上に繋げることができました。

また、当事務所では、有機センターの生産拡大と平行して需要の掘り起こしも進めており、稲WCSを未利用の畜産農家に対して、利用によるメリットを粘り強く説明するとともに、不安の払拭に努めてきました。この結果、今年度から新たに2農家（酪農経営）が利用を開始し、その後、乳量等に影響が生じていないか定期的に状況を確認しています。

今後、稲WCSの需要の高まりに対応するため、面積の拡大以外に、専用品種の導入による単収増加や品質向上、作期分散など供給量の拡大に向けた対策の検討を重ね、松任地区における耕畜連携の更なる強化を目指し、継続的に取組を支援していきます。



収穫機

（刈取からロール成形まで一貫して行える）



ロールのラッピング作業

問い合わせ先：農業振興部（076-276-0371）